

平成27年度

学校関係者評価報告書

平成28年9月

筑波研究学園専門学校  
学校関係者評価委員会

## ■平成27年度 学校関係者評価について

筑波研究学園専門学校では、平成20年度より自己点検・評価委員会を設置し、日頃の教育活動について自己点検・評価を実施してきました。また、平成25年度からは、企業及び業界団体や保護者、卒業生等で構成する学校関係者評価委員会を設置し、様々な立場を代表する委員の皆様から学校運営・教育活動実績報告書をもとにご議論いただき、本校の学校運営や教育活動に対して点検・評価していただいております。

以下、先般開催した学校関係者評価委員会の評価結果について報告します。

### 1. 実施日時・場所

平成28年9月14日（水）12：00～14：30

筑波研究学園専門学校 6号館大講義室

### 2. 実施方法

(1) 実施組織：学校関係者評価委員会

○評価委員 ※50音順

青木 貞雄	一般財団法人総合科学研究機構 理事
浅田 順	学校法人霞ヶ浦高等学校理事・元校長 石岡市教育委員会元委員長
古森 貞弘	茨城県立牛久高校元校長 筑波研究学園専門学校第5代校長
齋藤 鐵哉	国立研究開発法人物質・材料研究機構名誉顧問 一般財団法人総合科学研究機構センター長
瀬尾 達朗	株式会社筑波銀行 上席執行役員 本店営業部長
竹内 俊作	一般財団法人日本自動車研究所 業務執行理事
辻 信行	ツジ電子株式会社代表取締役 一般財団法人茨城研究開発型企業交流協会名誉顧問
中山 和則	公益財団法人筑波メディカルセンター 筑波メディカルセンター病院 副院長
羽澄 順二	株式会社つくば研究開発支援機構監査役 株式会社カスミ元取締役
平塚知真子	株式会社エデュケーションデザインラボ代表取締役 一般社団法人みらいウェブ推進協会理事長
堀内 敬王	TIST 建友会会長、鹿島市役所
増山 栄	五籃会会長、株式会社増山栄建築設計事務所 所長
安田 秀司	学校法人安田学園理事長、アカデミア幼稚園園長
渡邊 壽恵	学校法人温習塾つくば秀英高校元校長 筑波研究学園専門学校元副校長

## ○学校関係

西谷 隆義 学校法人筑波研究学園 理事長  
柿崎 明人 筑波研究学園専門学校 学校長  
勝村 正巳 筑波研究学園専門学校 電子機械工学科長  
高野 宏之 筑波研究学園専門学校 自動車整備工学科長  
大野 克典 筑波研究学園専門学校 建築環境学科長  
水越 武 筑波研究学園専門学校 経営情報学科長  
横瀬 和子 筑波研究学園専門学校 医療情報学科長  
大森 淳子 筑波研究学園専門学校 こども未来学科長  
野口 孝之 筑波研究学園専門学校 教務部長  
檜山 直己 筑波研究学園専門学校 入学広報部長  
田邊 寛 筑波研究学園専門学校 事務部長  
葛綿 賢二 筑波研究学園専門学校 進路情報室長  
赤羽根隆之 学校法人筑波研究学園 法人企画部長  
志賀 宏 学校法人筑波研究学園 法人事務局長

(2) 評価基準：文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠

(3) 評価方法：平成27年度学校運営・教育活動実績報告書に対する学校関係者評価

### 3. 評価の項目

次の10項目について実施

- (1) 教育理念・目標
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受け入れ募集
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献

### 4. 評価項目に対する評価

(1) 次の4段階で点数評価

4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

(2) 委員会で提出された意見や質疑、提案事項等を記載

### 5. その他

平成27年度 学校自己点検・評価を併せてご覧ください。

## 項目1 教育理念・目標

評価：3.9

- ・産学協同の専門学校として、地域に根差した教育理念・目標は設立当初より明確である。
- ・職業実践専門課程の認定校として、『関係業界との連携』を教育理念・目標に明確に位置付けることが大切である。
- ・学校一丸となって目標の実現に向けて努力していることが伺える。
- ・教育方針の一つとして「グローバル社会に対応できる知識、技術力の育成」の視点についても検討してほしい。

## 項目2 学校運営

評価：3.8

- ・学校運営方針、人事、給与等に関する規程等の周知徹底を図り、教職員の動きやすい環境づくりは円滑な学校運営に繋がる。今後とも、堅実、かつ時代の変化に即した運営を期待する。
- ・運営方針の策定や教務や財務等に関する意思決定システムは、評議員会や理事会での審議、承認まで含めて適切である。また、学校の目標として「職業実践専門課程」に沿った実践活動を運営方針に明確に記載するべきである。
- ・様々な規則・規程の整備に関しては、十分な対処がなされていると判断できる。しかし、教職員への周知については今後も一層の努力が必要である。
- ・教職員への周知方法として規程を全部周知されることは不可能であるため、必要なものを採用時に渡す等、対応すればよいと思われる。

## 項目3 教育活動

評価：3.6

- ・学校全体としては、教育課程を外部識者等の意見を取り入れて見直しを図るなど、実践的な職業教育の充実に向けて努力している姿勢がみられる。また、教育活動の推進となる教職員研修会の研修体制は継続してほしい。
- ・学科毎の職業教育は、取り組みのバラつきが見られ対策が遅れているように伺える。特に、「各専門領域に関する教材研究・指導力向上等、職員の能力開発」は学科により不十分に思われる。問題点がどこにあるのかを明確にして改善・改良ができるようPDCAサイクルに沿った運営が必要である。
- ・従来との比較において、何が改善されたのかが分かる資料の提供（特に授業時間数の確保による学習計画の大幅な変更等）をお願いしたい。また、各学科が企業等とどのような連携をしているかが分かる具体的な資料の提供をお願いしたい。
- ・従来、この項目に対する自己点検・評価委員会の評価は厳しすぎるとも思える傾向があり、なお一層の努力表明と感じられ、好感を持って受け止めてきた。今後ともその決意表明に沿った努力を期待する。
- ・成績評価の条件として2/3以上の出席で可としているが、原則100%にすべきである。
- ・クラウドの習得等、中小企業の情報化に資する技術や活用を教職員全員が学ぶ機会をもつことができるとなお良い。

#### 項目4 学修成果

評価：3.8

- ・学生の能力に応じた適切な指導教育がなされ、学修成果を高めるための努力が感じられる。
- ・免許・資格によっては合格率がやや低いものの、学校全体で見て多くの免許・資格の合格率が全国平均を上回っていることは大きな成果である。
- ・98.6%の高い進路決定率は、教職員の親身な指導、学生の努力の成果である。
- ・専門学校においては、免許・資格の取得率向上、進路決定率の維持・向上は学校の生命線であり、今後とも最大限の努力が必要である。
- ・休学・退学者が出ることは仕方ないものの、特定学科で人数が多いことについては分析と対策が必要である。また、休学・退学の原因は様々であるが、より事前指導を徹底し低減を図っていただきたい。
- ・卒業後のキャリア形成への効果を学校の教育活動の改善に活用して欲しい。次のレベルに進むための課題は、各学科と企業等との連携体制である。各学科の努力に期待したい。

#### 項目5 学生支援

評価：3.6

- ・「進路・就職指導」、「学生相談」、「健康管理」、「生活環境」への支援体制は、専修学校設置基準に沿って整備されており、学生の支援対応として相談窓口を設け、その上、卒業生への支援指導等を含め、その対応は懇切丁寧である。
- ・各学科の「進路・就職指導」、「学生相談」への支援体制には課題があり、現在、PDCAサイクルのPDCまでの段階と考えられる。28年度の改良・実践に期待したい。
- ・学生支援、特にメンタルな面についてはクラス担任だけでなく学科長をはじめとした教員、各部門長等の複数教員での対応が強化されていることは心強い。その一方で、メンタル面での対応については教職員だけではなく専門要員の配置の検討も必要と思われる。
- ・卒業後の離職状況が把握できるための体制整備を進めてほしい。

#### 項目6 教育環境

評価：3.9

- ・専門学校として、教育施設、設備等が指定基準に準じて整備されていることは評価できる。このような素晴らしい教育施設環境を、より多くの方にPRし理解を深めていただきたい。
- ・広々としたキャンパスの中での学業と部活等に適した環境である。
- ・この項目に関しては、全般的に問題はなく、整備に努力がみられる。今後は構内全域にわたるバリアフリー化の推進が期待される。
- ・各学科における「学外実習やインターンシップ、外部講師による学内実習等の教育環境（学外実習先の確保、外部講師の確保）」の一層の充実に向けた改善を期待する。
- ・近年、企業や教育現場では無線LANの環境は必要不可欠（TISTではエリアを限定して利用可能）となっている。プロジェクターやタブレット等の積極的な導入、活用も検討の一つである。

## 項目7 学生の受け入れ募集

評価：4.0

- ・学生募集に関する推進体制の整備がなされており適切に機能している。
- ・本校の職業専門学校としての教育内容、技能指導等の実績、評価を学生募集にその魅力を訴えていることは効果的である。さらに他の専門学校と対比し、他にない優れた魅力を発信していければなおよい。
- ・学納金等の徴収金額はすべて明示しており適切であり、入学辞退者の授業料返還についても適切に取り扱われている。
- ・学生募集は学校経営の要となる。日頃の教育活動への取り組みが報われることを期待する。
- ・それぞれの学科が特徴をもち、県内外からの希望者があることは評価できる。

## 項目8 財務

評価：3.9

- ・財務状況は安定しており、予算・収支計画の策定は理事会・評議員会での審議を経て適切に決定されている。また、借入金の繰上返済や基本金増を着実に実施しており好ましい。
- ・本校の財務状況が継続して安定していることは、平成31年4月の「専門職業大学」開校に向けての基盤となろう。そのためにも、入学者の定員確保は絶対条件で、更に、休退学者0を目指した財務基盤の安定を心がけてほしい。

## 項目9 法令等の遵守

評価：4.0

- ・学校教育法、私立学校法、専修学校設置基準をはじめとする関係法令に基づき、円滑な学校運営がなされている。また、この点については学校としての歴史の積み重ねがある。
- ・個人情報保護法にも配慮し、常に自己点検・評価、学校評価で議論されたことを取り入れ、新しい時代のニーズに応えられる、ゆるぎない学校運営を維持してほしい。
- ・教職員はもとより、学生に対してもコンプライアンス遵守の重要性が教育されている。

## 項目10 社会貢献・地域貢献

評価：3.8

- ・学校施設の開放や公開講座等の実施等、開かれた学校として地域活動に積極的に取り組み、貢献している様子が伺える。
- ・学生のボランティア活動の支援体制の整備は評価できる。今後の充実を期待する。また、学生の活動状況を公開していくことも大切なことと思われる。
- ・専門学校としての特色を活かし、地域、社会、関係団体、企業等との連携協力、学校施設の開放、学生のボランティア等、あらゆる機会を通じた社会貢献に期待する。